

教育概論Ⅱ(中高)－6

担当：鵜殿篤

<http://meganeeculture.boon.jp/2019/09/19/gairon2/>



▼語学・心カ・教福・服美・表現 11/9 / 栄養・環教 11/5

■今回の見通し

・「教科等横断的な視点」について、具体的に何をしなければいけないのか、確認しましょう。

・「カリキュラム・マネジメント」という言葉に慣れましょう。

第1 中学校教育の基本と教育課程の役割

4 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を**教科等横断的な視点**で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「**カリキュラム・マネジメント**」という。）に努めるものとする。（20頁）

第2 教育課程の編成

2 **教科等横断的な視点**に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、**言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力**等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、**教科等横断的な視点**から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた**現代的な諸課題**に対応して求められる資質・能力を、**教科等横断的な視点**で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。（21頁）

- 1：伝統や文化に関する教育(国語・社会・技術家庭・保健体育・音楽・美術・etc.)
- 2：主権者に関する教育(社会・道徳・特別活動・理科・技術家庭)
- 3：消費者に関する教育(社会・技術家庭・道徳)
- 4：法に関する教育(社会・技術家庭・道徳・特別活動)
- 5：知的財産に関する教育(国語・社会・技術家庭・音楽・美術・道徳)
- 6：郷土や地域に関する教育(社会・音楽・技術家庭・美術・外国語・総合・特別活動)
- 7：海洋に関する教育(社会・技術家庭・理科・特別活動)
- 8：環境に関する教育(社会・技術家庭・理科・保健体育・道徳・総合)
- 9：放射線に関する教育(国語・理科・技術家庭・保健体育・道徳)
- 10：生命の尊重に関する教育(理科・道徳・特別活動)

- 11：心身の健康の保持増進に関する教育(保健体育・社会・理科・技術家庭・etc.)
12：食に関する教育(社会・理科・技術家庭・保健体育・道徳・総合・特別活動)
13：防災を含む安全に関する教育(保健体育・社会・理科・技術家庭・美術・道徳・総合)

『学習指導要領解説 総則編』200-245頁

※「カリキュラム・マネジメント」の一部として「教科等横断的な視点」が求められていることを確認しましょう。

※「教科等横断的な視点」には、2種類あることを確認しましょう。

■前回のおさらい

・教育課程編成のルール

■今回身につける基本的知識

各教科の目標

・各教科の目標が、学習指導要領に記されています。

※「学力の三要素」を意識しながら内容を確認しましょう。

※「見方・考え方」を踏まえて、「教科の本質」についての洞察を深めましょう。

社会(41頁)

社会的な**見方・考え方**を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して**理解**するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる**技能**を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする**力**、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする**力**を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする**態度**を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての**自覚**などを深める。

理科(78頁)

自然の事物・現象に関わり、理科の**見方・考え方**を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を**科学的**に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての**理解**を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な**技能**を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する**力**を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする**態度**を養う。

美術(107 頁)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な**見方・考え方**を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について**理解**するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことが**できる**ようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく**態度**を養い、豊かな**情操**を培う。

家庭科(132 頁)

生活の営みに係る**見方・考え方**や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な**理解**を図るとともに、それらに係る**技能**を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する**力**を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な**態度**を養う。

外国語(144 頁)

外国語によるコミュニケーションにおける**見方・考え方**を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを**理解**するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる**技能**を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる**力**を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする**態度**を養う。

※見方：鍵となる概念

※考え方：方法論

→「教科の本質」とは何でしょうか?…「概念」とは? 「方法論」とは?

教科等横断的な視点

・教科の枠や垣根を取り払い、ひとつの総合的な「力」を育てます。

※社会に出たら教科の分断などありません。あるのはひとつの「世界」と「人生」だけです。ある教科が得意とか苦手などと言う意味も理由も価値もありません。

※ある教科で身につけた力は、別の教科でも発揮することができるはずです。

▼言語能力＝ディベート、ディスカッション、レポート、プレゼンテーション

▼情報活用能力＝ICT、メディアリテラシー

▼問題発見・解決能力＝問題解決学習

→教育課程全体をシステム化し、各教科をつなぎ合わせ、連動させます。

→多面的多角的にものごとを理解・判断できるようになることを目指します。

※多面的＝概念のレイヤー(層)化。多角的＝方法論の多様化。



■今回の「週刊教育課程」

・自分の学校が育成を目指す「資質・能力」を身につけさせるために、教科等横断的な視点を駆使しよう。

(1)自分が担当する教科(理科・社会・外国語・家庭科・美術・情報/食育・健康安全)で、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」をどのように育むか、具体的に考えてみよう。

(2)自分が作ったオリジナル教科に対して、各教科で獲得した知識や能力がどのように関わってくるか、考えてみよう。

(3)自分の学校の「教育目標(コンピテンシー・ソフトスキル)」やオリジナル教科を踏まえ、さらに各教科の「本質」を考慮した上で、各教科ごとにどのような資質・能力を育むか、重点目標を定めよう。



■復習と予習

・「カリキュラム・マネジメント」と「教科等横断的な視点」について、理解を深めておきましょう。

・「主体的・対話的で深い学び」という言葉の登場に伴って「アクティブ・ラーニング」という言葉が使用されなくなった経緯を調べてみよう。